

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

397号

2024年4月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

「尹政権審判」対「力の平和」、台風の日になるか祖国革新党

韓国第22代国会議員選挙が4月10日に行われます。朝鮮半島はもちろん東アジアの平和に大きく影響を及ぼす重要な選挙です。最近の世論調査では与野拮抗か野党やや有利と伝えていますが、猫の目のように変わる韓国政局、投票日まで目が離せません。選挙には計952人が立候補し、小選挙区254議席、比例代表46議席を争います。

今回の総選挙は尹政権2年間の中間評価的選挙ですが、物価高に悩む庶民の評価は厳しく、最近、尹大統領が起こした「長ねぎ騒動」はそれを象徴するニュースです。尹大統領は3月18日、物価状況の点検のため農協が運営する野菜売り場を訪れた際、長ねぎ一束が875ウォン(約90円)との表示価格を見て「合理的価格だ」と話したことがきっかけとなり、「庶民感覚とかけ離れた金銭感覚の大統領」とマスコミが大々的に報じました。実は店側は大統領訪問前に4250ウォンを875ウォンに値下げした限定品を販売していました。国民は「大統領が野菜の価格も知らずに物価対策ができるのか」と白けた目で見ています。

これにも増して国民の反感を買っているのが「オーストラリア大使任命騒動」です。昨年7月、慶尚北道醴泉郡で豪雨の行方不明者を捜索していた海兵隊員が、遺体で発見された事件の捜査を担当したパク・チョンフン前海兵隊捜査団長の「外圧」発言を巡り、「大統領が関与したのでは」との疑惑の中心人物として注目されたのが李鐘燮(イ・ジョンソプ)前国防部長官です。国防部長官の決裁まで受けた捜査結果が、わずか一日で覆された理由に大統領室の「外圧」の疑いが指摘される中、尹大統領は「高位公職者調査庁」による出国禁止

措置が取られていた李長官を解任してオーストラリア大使に任命、さらに外交部が出国禁止措置を解除して、豪州大使に赴任するため出国させたことが「捜査妨害ではないか」と国民の義憤を招く結果となりました。また首都圏を選挙基盤とする与党候補者からも、「このままでは選挙が闘えない」との声に押される形で大使を辞任するドタバタ劇で幕を下ろしました。

しかし、尹政権の最大の不安要素は朝鮮半島を戦争の危機へと追いやっている対北強硬政策です。文政権が行った南北軍事合意(9・19合意)で緩衝地帯を南北共に20キロ下がることにして軍事衝突の危機を避けることに成功しましたが、尹政権はこの合意をあっさり放棄してしまい、さらに去年は韓米・韓米日軍事訓練を繰り返し、一気に軍事緊張を高め、朝鮮半島は戦雲漂う朝鮮戦争前夜のような状況になっています。

今回の与党の選挙スローガンは「力による平和」です。文政権の南北軍事合意による平和を「偽りの平和」と呼び、北を力で圧殺する強硬路線を貫いています。平和を守るか、戦争に突き進むのが問われる選挙です。こんな中、曹国(チョ・グク)元法務部長官が立ち上げた新党「祖国革新党」が急速に国民の支持を集めています。比例代表だけに候補を立てていますが、支持率が20%を超える勢いで院内第3党をうかがう健闘を見せています。「尹政権を審判する」を掲げ、全国8ヶ所の検事長を地域住民による公選制にするなど検察独裁を防ぐ具体策を示し、今や総選挙の台風の日になっています。国民の尹政権への審判は明らかになりつつあります。(鐵)



▲ガッツポーズで決意を表す祖国革新党
曹国代表

韓米合同軍事演習反対！

朝鮮半島の平和を実現しよう！

韓統連全国代表者会議

3月4日から朝鮮半島で韓米合同軍事演習が実施され、朝鮮半島の軍事緊張が高まる中、「韓米合同軍事演習反対！韓統連全国代表者会議」が3月3日（日）、名古屋市公会堂（名古屋市昭和区）で開かれた。

代表者会議では、宋世一（ソン・セイル）韓統連委員長が主催者挨拶を通じ「韓米合同軍事演習が強行される。昨年は年間250回～260回にもなる演習が行われ、朝鮮半島の軍事緊張が高まり続けている。特に今回の演習には核兵器を搭載できる戦略資産を動員しており、朝鮮半島はもう核戦争も想定した軍事緊張に到達したというしかない」と語った。



▲プラカードアピールを行う参加者

続いて「尹錫悦政権は完全な対米追従、同族の朝鮮に対する対決姿勢を強化しており、自由民主主義による吸収統一を口に上げている。朝鮮はこのような戦争脅威に対して“平和なのか、戦争なのか”一つを選択するよう通告している。軍事演習を中止させることは朝鮮半島の平和につながっていく。全力で軍事演習に反対していこう」と訴えた。

次に、韓成祐（ハン・ソング）韓青中央本部委員長と尹康彦（ユン・カンヨン）韓統連広島本部代表委員が意見表明を行った後、金昌五（キム・チャンウ）韓統連副委員長が決議文の朗読を行った。

決議文では▲韓米合同軍事演習中止。▲米国の対北敵対政策放棄。▲尹錫悦政権の対米追従、対北対決政策放棄などの内容を決議し、最後に金隆司（キム・ユンシ）韓統連副委員長が閉会辞を行った。

その後、参加者全員で韓米合同軍事演習中止を求めるプラカードアピールを行った。

尹錫悦政権を審判し、

総選挙に勝利しよう！

2024韓国総選挙を考える集い

4月10日に実施される韓国国会議員選挙を控え、韓統連大阪本部主催で「2024韓国総選挙を考える集い」が3月24日（日）、KCC会館（大阪市生野区）で開かれた。

集いでは、金隆司韓統連大阪本部代表委員が主催者挨拶を通じ「尹錫悦政権になって韓国の歴史は後退し、南北関係は緊張状態が続いています。このような尹政権を退陣させなければなりません。そのために今回の総選挙では進歩・民主陣営の勝利が必要です。今日の講演を通じ総選挙情勢と展望について、皆さんと共に認識を共有したいと思います」と語った。



▲総選挙の動向について熱心に聞く集い参加者

次に、金昌五大阪本部副代表委員が講演を行った。金副代表は「今回の総選挙では尹錫悦政権を審判しなければならない。そのためには“1対1の構図”を作らなければならない」とし、「そのための共に民主党・進歩党・新進歩連合の3党と市民社会団体による比例政党“共に民主連合”が結成されたことは期待できる」と述べるとともに、「曹国（チョ・グク）元法務部長菅が結成した祖国革新党は“尹錫悦検察独裁を終わらせる”をスローガンに掲げ、各地で旋風を巻き起こしている」と語った。

そして「総選挙で反尹錫悦連合の目標は200議席。この議席数を獲得できれば尹政権の弾劾が可能になる」と述べながら「民主・進歩勢力は団結して尹錫悦政権に審判を下そう」と訴えた。

講演後は質疑応答と集い参加者全員に呼びかけて実施した総選挙模擬投票の結果発表、在外選挙人投票案内などが行われ、最後に金昌範（キム・チャンボム）副代表委員が閉会挨拶を行った。

【翻訳資料】 「旧時代の政治、思想・イデオロギー、従北攻撃」中止！

市民社会団体、国家保安法廃止を求める汎国民・海外同胞記者会見を開催

国家保安法廃止国民行動、6・15共同宣言実践南側委員会、公安弾圧阻止対策委員会、国家保安法廃止国会議員の会など市民社会団体は3月22日、国会本館階段前で「旧時代の政治・思想・イデオロギー・従北攻撃の中止及び国家保安法廃止汎国民・海外同胞記者会見」を開き、「第21代国会は国家保安法を直ちに廃止せよ」と強く求めた。



▲プラカードで国家保安法廃止を訴える参加者

彼らは記者会見文を通じ「尹錫悦政権は就任と同時に国家情報院を押し立てて、数多くの市民をスパイとして追いやり、無差別的な押収捜査を通じて大々的な公安弾圧と局面転換のために国家保安法体制のイデオロギー攻撃を展開している」と主張した。

続けて「10・29梨泰院惨事の真相究明要求に“従北のレッテルを貼り”で誹謗中傷し、日本の福島放射能汚染水海洋投棄に反対する国民に、誰かの“指令”を受けたという思想論争を押し付けた」と糾弾した。

のみならず「今回の総選挙の過程でも、与党国民の力と保守メディアを動員して、古い思想論争で若者の挑戦を歪曲し、農民の願いを葬り去り、

国の主権と平和を主張して、民主主義の発展と社会的弱者の権益を擁護する活動家と団体を思想論争で攻撃し、世論誘導を通じて一方的に悪の勢力と決めつけている」と激烈に非難した。



▲発言する尹美香国会議員

参加者たちは、与党の韓東勳（ハン・ドフン）非常対策委員長が中心となって現在、反民主的な国家保安法をテコにして進めている「旧時代的な政治・思想・イデオロギー・従北攻勢を中止すること」を厳重に警告した。

最後に、第21代国会で国家保安法が廃止されずとも、第22代国会ではさらに頑強に廃止運動を進めると表明した。

この日、国家保安法廃止国民行動のアン・ジジュン共同運営委員長の司会で、6・15南側委員会イ・ホンジョン常任代表の開会挨拶、尹美香（ユン・ミヤン）国会議員、カン・ミンジョン国会議員の冒頭発言、国家保安法廃止国民行動パク・ソグン共同代表、民主労総ハム・ジェギユ統一委員長（労働界）、ステラ・パクAOKアメリカ副代表（在米同胞LA）、進歩党ホン・フィジン共同代表ら各界の発言が行われた（韓国ネット新聞“統一ニュース”3月22日付より）。



韓国オプティカルハイテック支会の闘いに連帯しよう！

おおさかユニオンネットワーク代表 西山直洋

韓国オプティカルハイテックは、日本の日東電工（本社：大阪市）が100%株式を持つ韓国の子会社です。2022年に工場火災が起こり、その後、一方的に会社を解散して、労使交渉をすることなく労働者を整理解雇しました。解雇された労働者は工場の再開、解雇撤回などを求め数度にわたり訪日して、東京と大阪で日本の連帯勢力とともに抗議行動を行っています。

今回、韓国オプティカルハイテック支会と行動を共にしている、おおさかユニオンネットワーク代表の西山直洋さんから、大阪での闘いについて書いて頂きました。

昨年10月7日、民主労総・全国建設労働組合の仲間10名が訪日し、ともに受ける権力弾圧を跳ね返す内容を盛り込んだ決起集会を大阪で開催した。

その後、建設労組の団は9日に帰韓した。この日に「もう1団、大阪へ来る」と情報が入り、建設労組の残った1名とともに金属労組・韓国オプティカルハイテック支会と出会った。

事前情報はあまりない。金属労組の関係は韓国サンケン電気闘争、韓国ワイパー闘争と国際連帯の力で解決してきた。大阪でもサンケン電気では毎月2回の行動を継続し、ワイパー労組もデンソー大阪支店前での抗議行動を展開してきた。その中で今回3企業目の日本資本による韓国労働者に対する弾圧行為だと即座に認識できた。

10月10日、おおさかユニオンネットワークとして日東電工への申入れ行動を行った。グランフロント大阪の33階へ、当該組合員とおおさかユニオンネットワークのメンバーが会社に入った。出てきた日東電工の担当者は「ユニオンネットワークのメンバーとは会わない。当該組合員と通訳のみで話だけ聞く」と不誠実な対応をとった。その対応に、オプティカル支会のチェ・ヒョンファン支会長は「怒りをもって、資本のこの対応に抗議する」と怒りを表し、その後「何もつながりがない大阪の地に入り、このように連帯行動ができるとは思っていなかった」と感謝の言葉を聞き、若い支会長の闘いの情熱が伝わってきた。

日本資本のグローバル化は世界各国の地域の労働者を踏み台にしている。この姿や対応に日本の労働者として、労働組合として当然許してはならないとし、翌日11日から13日までの連続行動を取り組んだ。日東電工本社の人権をも無視した対応にJR大阪駅前では私たちは声をあげた。その後「グランフロント大阪前での大阪本社抗議行動は継続しなければならない」と韓国のメンバーと確認しあった。

11月には、大阪からも韓国の労働者大会に参加するために訪韓した。訪韓初日には日本企業が多く参加している日本商工会議所への申入れ行動を行った。土曜日ということもあり、商工会議所は休日で、申入書のみでの投函であった。しかし未だに返事はなしである。



▲日東電工大阪本社前で抗議行動を行う
おおさかユニオンネットワークのメンバー

その後、日本に帰り、12月14日に大阪本社前でオプティカルハイテック闘争支援行動をおおさかユニオンネットワークの仲間と取り組んだ。

会社側はその後、当該労働者に対して仮処分などの攻撃をかけてきた。まさに自らの非を一切認めず、解決しようとしめない姿勢をあらわにしてきたため、おおさかユニオンネットワークとしても今後、強固な連帯行動を取り組まなくてはならないと決議し、2024年からは2月、3月行動を計画して取り組んできた。

今後も「万国の労働者は団結せよ！」「労働者はひとつだ！」をスローガンに、韓国オプティカルハイテック支会の仲間とともに、大阪に本社を構える日東電工に対する抗議行動を取り組んでいく決意だ。

【コラム】

植民地支配の実相

中山 茂

火曜日行動（大阪府庁前で朝鮮学校への行政差別の是正を求める街頭宣伝）の初めの頃、10年か11年前ですが、ある在日朝鮮人の方と話になった。夏の頃で、私はサンダルばきで、私の足首の傷跡の話になった。私は交通事故で足首に手術の跡がある。この方も足首に傷があり、話しかけてこられた。



▲火曜行動に参加する中山茂さん(左側)

「父を探しに行った北海道で、冬の港で、仕事をしている母を待っている時、風邪を引かないように足首の靴下を輪ゴムで強く縛っていて、その跡が今も残っているんですよ」と静かに話された。

「父を探しに」初め分からなかったが聞くと、戦中（解放前）北海道に働きに行っていた父を探しに、臨月の母親が子どもを連れて北海道まで探しに行かれたのだった。

朝鮮半島から渡日し、北海道の工事現場か炭鉱などに働きに行かれたのだろう。強制連行だったのかもしれない。自分の意志での渡日だったのかもしれない。しかし、朝鮮半島で生きて行けなくなった農民や都市貧民、下層の労働者が生きていくために日本に来た。「自分の意志」など問題ではない。日本の植民地支配の結果、海を渡らざるをえなかったのは間違いない。

最近、この方がある会合で「自分は東北の田舎の小屋で生まれた」と報告されていた。関西生まれだと思っていた人が、東北生まれだとは驚いたが、上記のような事情があったのだ。臨月だった母親が駅の近所的小屋で、この方を生んだのだ。

だから、フェイスブックの出身地は東北のある県だった。聞いていた断片が埋まっていく。ここに在日朝鮮人の歴史が凝縮されている。

あの方の足首の輪ゴムが食い込んだ跡。乳児の時の傷だが、70年以上経った今でも傷跡の傷みは消えないだろう。

火曜日行動ではいろんな方と話になる。朝鮮人とも、日本人とも話になるが、私と同じ70代の人との話が多い。その中でもこの「輪ゴムの傷跡」の話は生涯消えないだろう。この方とは今でも会うが、今はお互い孫の話が多くなったが、また生い立ちの話をしたい。10年前とは違った雰囲気での話になると思う。



▲戦争中、北海道の炭鉱には朝鮮人が働いていた
(写真は北海道尺別炭鉱)

日本帝国主義の植民地支配。すべての在日朝鮮人の人生に影響した。その歴史、生き方、ありとあらゆる思いをまるごと詰め込んだ植民地主義の結果について、私たちは真摯に向き合わなければならない。



【韓国ドラマ紹介】

カーテンコール

韓国ドラマには恋愛物、ラブコメ、復讐物、詐欺物など、いろいろな分け方があります。今回紹介する「カーテンコール」は詐欺物です。詐欺＝誰かを騙すわけですから、悪いイメージを持ちますが、あらすじは「嘘も方便」という日本のことわざに近い内容で、最後はちょっとホッコリするドラマです。

物語は朝鮮戦争時。砲弾が飛び交う中、北に住む夫婦と子どもは南に行く船に乗って避難しようしますが、乗れたのは母親のチャ・グムスンだけで、夫と息子は北に残ってしまいます。それから数十年の時が流れ、グムスは韓国で一流のホテル「楽園」のオーナーになりました。彼女は一度だけ南北離散家族再会事業で息子と孫息子ムンソンに会いますが、後に息子は亡くなります。

その後、高齢になったグムスンは大病を患い、医者から余命宣告を受けます。彼女の最後の願いは北に住む孫ムンソンに会うことです。

そのこと知った側近のサン Chol は、グムスの願いを叶えてやりたいと考え、たまたま演劇を見た劇団を訪ね、ユ・ジェホンという俳優に、グムスが亡くなるまで孫息子ムンソンとして一緒に生活をしてほしいと依頼します。なぜ彼に依頼

したか？理由は二つ、一つは無名であること。もう一つは彼は北側の方が話せることです。

ジェホンは依頼を引き受け、舞台仲間のユンヒに偽りの夫婦役を頼み、二人でグムスと生活をすることになります。



ここまでが物語の大筋です。物語が進むにつれ、なぜグムスがホテルを営むようになったのか？ホテル経営をめぐる権力争いや物語の中盤からは、本物のムンソンが登場するなど、ハラハラドキドキの展開が続きます。

このドラマは動画配信サイト「プライムビデオ」で見ることができます。

話は変わりますが、3月27日から韓国で映画「1980」が公開されています。光州民衆抗争

をテーマにした映画です。1980年5月17日に全羅南道庁の近くに中華料理店を開店した家族をモデルにした内容だそうで、カン・スンヨン監督は「名もなき小さな市民に焦点を当てています。韓国の民主主義のルーツは5月18日だと言いたい」とマスコミに語っています。

日本で公開されるか否か不明ですが、公開となれば見に行きたいと思います。(ソン)

◆◆行事案内◆◆

連帯の夕べ

日時：4月21日(日)午後4時：受付／午後4時30分：開会
場所：KCC会館5階ホール(地下鉄今里駅下車2番出口から徒歩7分)
大阪市生野区中川西2-6-10

内容：第1部：記念講演 講師：宋世一 韓統連委員長
第2部：懇親会

参加費：4000円(記念講演会のみ方は500円)

主催：韓統連大阪本部 090-3822-5723(崔)

編集後記

いよいよ総選挙の運動期間に入りました。前回の大統領選挙では悔しい思いをしましたが、4月10日の投票結果が楽しみです。尹錫悦政権審判！

(ソン)

